

(概要版)

コミュニケーションを楽しもうとする態度を育成する英語活動の工夫

- 三つの活動場面を取り入れた実践を通して -



長期研修 研修員 松田 康子

平成23年度から第5学年及び第6学年において
それぞれ年間35単位時間の外国語活動が実施されます

その目標は

小学校新学習指導要領 「外国語活動」

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

総合的な学習の時間に、ALTが来て、ゲームをしてくれたけど、私は、通訳や活動の補助をしていただけだわ。このままでいいのかしら？

これから、35単位時間も何をどうしたらいいのだろうか？

英語活動の時間は楽しいけど、簡単なゲームは、あきちゃうよ。英語で友達と話したいな。

そこで、私は、次のように考えた英語活動を実践してみました。

コミュニケーション能力の素地を養うとは、人とのかかわりを体験的に学びながら養われるものではないかと思いました。そのためには、**コミュニケーションを楽しもうとする態度を育成する**ことが必要だと考えました。

コミュニケーションを楽しもうとする態度を育成する

三つの活動場面を通して

自分のことが伝えられる

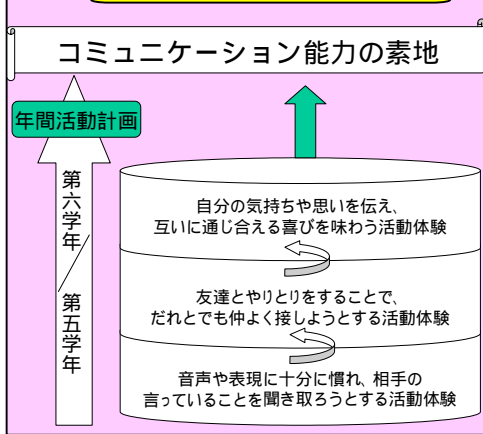
人とかかわったときの

相手の言っていることが分かる

楽しい体験を
積み重ねていく

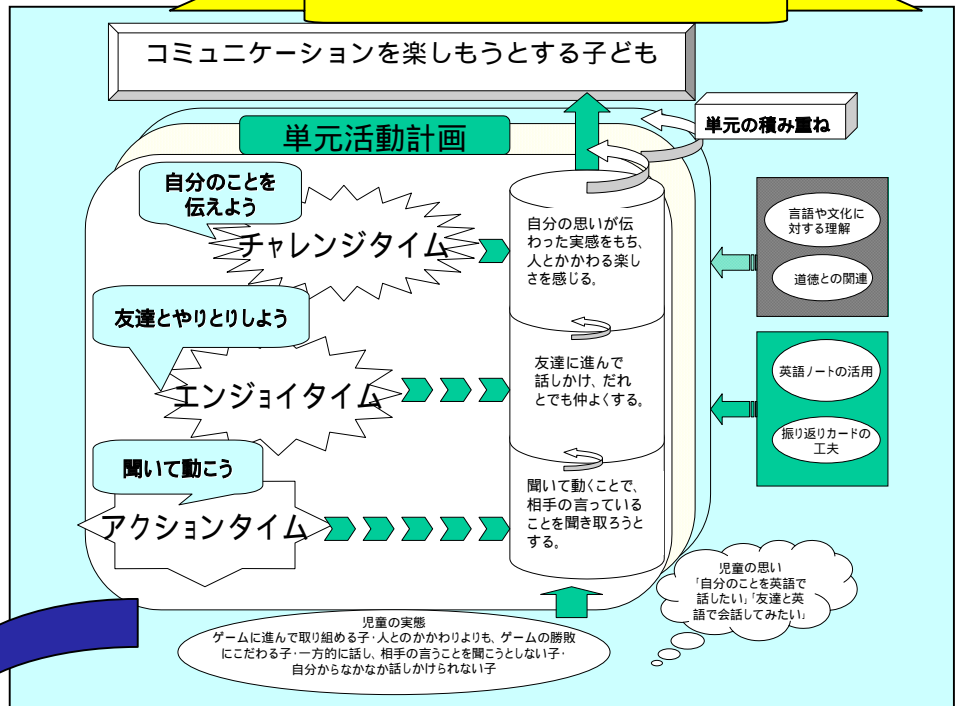


年間活動計画構想図



最初は、英語を繰り返し聞いて慣れることが大切なのね。十分に音声や表現に慣れたら、今度は、友達とやりとりしながら、話すことにも慣れていくのね。そして、最後には、子どもたちが自分の気持ちや思いを伝えて、分かってもらい喜びを味わえるようにしていくのね。でも、具体的には、どんな活動をしたらいいのかしら…？

単元活動計画構想図



なるほど、単元に「三つの活動場面」を段階を踏んで取り入れて考えていくな。今まで何となくゲームをしてきたが、一つの単位ごとに、明確なねらいをもった活動を組んでいくな。でも、この「アクションタイム・エンジョイタイム・チャレンジタイム」という三つの活動場面では、具体的にどんな活動をしたらいいのだろう…？

具体的に単元活動計画で表すと…

「行ってみたい国を紹介しよう」単元活動計画

これは、六年生で11月に行った単元の活動計画です。第一時は、アクションタイムの内容を中心とした活動、第二時は、エンジョイタイムの内容を中心とした活動、第三時は、チャレンジタイムの内容を中心とした活動を行いました。

時間	第1時	第2時	第3時	第4時
ねらい	クイズを通して、世界の国の名前や国旗とその特徴に気付く。	ゲームを通して、世界の国の名前に慣れ親しむとともに、進んでゲームに参加しようとする。	食べ物カルタゲームやインタビュービンゴゲームを通して、友達とやりとりをしながら、進んで友達に話しかけたり、答えたりしようとする。	自分の行ってみたい国とその理由を伝えたり、友達の発表を聞いたりしながら、自分の伝えたいことが伝わる喜びや相手の伝えたいことがわかる喜びを味わう。
アクションタイム	世界の国クイズをする。 ・国名の漢字表記、カタカナ、国旗、特徴を同じ国同士で、線をつなぐ。 ・黒板にそれぞれの絵カードを国ごとに貼る。 ・CDを聞いて、線つなぎゲームをする。(英語ノートp39)	"I want to go to 国名。"を聞いて、国旗ビンゴゲームをする。 ・食べ物の絵カードを見ながら、どの国の食べ物か考えて、国旗カードを上げる「 どこの国の食べ物でしょう。 」クイズをする。	出題者を交代しながら、「I want to go to 国名。」を聞いて、その国の食べ物カードを取る、 食べ物カルタゲーム をする。	どこの国とかわかりの深い動物が考える 動物クイズ をする。
使用表現及び単語	世界の国の名前 I want to go to ~.	I want to go to ~. 世界の国の名前 I want to eat ~. 食べ物の名前	I want to go to ~. 世界の国の名前 I want to eat ~. 食べ物の名前	I want to see ~. 動物の名前
エンジョイタイム		相手を捜して、「I want to go to ~. I want to eat ~.」と言って、食べ物カードを集める「 行きたいな。食べたいな。 」ゲームをする。	相手を捜して、「Where do you want to go?」「I want to go to ~. 世界の国の名前」「I want to eat ~. 食べ物の名前」	
使用表現及び単語		I want to go to ~. 世界の国の名前 I want to eat ~. 食べ物の名前	Where do you want to go? I want to go to ~. 世界の国の名前 I want to eat ~. 食べ物の名前	
チャレンジタイム				自分の行ってみたい国とその理由を様々な相手に伝え合い、感想を書いたメッセージカードを交換したり、友達の発表を聞いたりする。
使用表現及び単語				I want to go to ~. 行ってみたい国の名前 I want to eat ~. I want to see ~. などの理由



「三つの活動場面」と実践例

聞いて動こう

アクションタイム

POINT 最初から、一斉に発話することをせず、聞かせることが中心であると考えましょう。ただ聞くだけではなく、「聞いて動く・聞いてかく」などの「聞いて反応する活動」をします。この活動には「ビンゴゲーム」「カルタ」「ジェスチャーゲーム」「クイズ」などがあります。『英語ノート』を使った「指さしゲーム」「おはじきゲーム」「線つなぎゲーム」も活用できます。

第2時
- 国旗ビンゴゲーム -

国旗カードは動かせるようになっているので、だれかがビンゴになったら、カードの位置を変えて、何度でもできます。

USA	France	Australia
USA	France	Australia
China	Japan	Italy
China	Japan	Italy
Korea	Germany	South Korea
Korea	Germany	South Korea

振り返りカードから・・・

日本では、「イタリア」ってはっきり発音するのに、英語だと「イタリー」とあいまいな感じがする。

知っているような国でも知らないことがたくさんあって驚いた。



友達とやりとりしよう

エンジョイタイム

POINT アクションタイムで、十分に慣れた表現を使って、ペアやグループを変えながら、多くの友達とやりとりをさせることが中心であると考えましょう。また、話している友達の目を見ながら聞くことや、相手に伝わるように話すことなど、人とかかわるときの態度や礼儀にも気を付けましょう。この活動には、「インタビューゲーム」「カード集めゲーム」「仲間探しゲーム」「ごっこ遊び」などがあります。

第2時 - 「行きたいな、食べたいな」ゲーム -

“Excuse me. I want to go to Italy. I want to eat pizza.”と話しかけ、相手がpizzaのカードをもっていたらそのカードをもらえます。

渡すときは“Here you are.”、もらったら“Thank you.”という会話のマナーも身に付けます。



振り返りカードから・・・

だれにでも、進んで話しかけることができるようになった。

今日は“Thank you.” “You’re welcome.”が言えたのでよかった。

友達の言っていることが分かって、それにあったカードを出すことができてよかった。

インタビュービンゴゲームで、友達と会話できたので楽しかった。

目を見て、相手に伝わるようにしゃべれた。

みんなと仲よくできた。



第3時
- インタビュービンゴゲーム -

A: Where do you want to go?
B: I want to go to India.
I want to eat curry.
A: OK. Thank you.
(curryのカードを裏返す。)

B: You’re welcome.
ビンゴになったらシールをもらい、カードを入れ替えて、何度でも続けます。時間になったら、AとBの役割を交換します。

自分のことを伝えよう

チャレンジタイム



POINT アクションタイム・エンジョイタイムで慣れ親しんだ表現を使って、一人一人が、自分の気持ちや思いを伝え合うことが中心であると考えましょう。たとえば、実際に先生方にインタビューを行い発表する活動、行ってみたい国や将来の夢を紹介する活動、低学年に読み聞かせをする活動などがあります。発表や紹介活動では、最初は、少人数で行い、最後は、みんなの前で行っていきようにするとよいでしょう。

子どもたちは、事前に行ってみたい国とその理由について調べたり考えたりして、ワークシートに絵や文字で表しておきます。最初は、少人数で発表し合い、付箋紙にメッセージを書いて、互いに交換します。最後に、全員の前で発表します。



I want to go to Egypt.
I want to see the Sphinx.
Thank you.

発表例

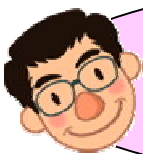
振り返りカードから・・・

みんなに伝わるようにしゃべるのは、けっこう大変だった。でも、しっかり伝わって良かった。
よく聞いてくれたので言いやすかった。
友達に話したのも、友達の発表を聞くのも楽しかった。
もっとたくさんの国のことも知りたくなった。

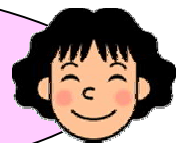


活動終了後の児童の感想

みんなと英語で話せたので、自信がついた。
ゲームでやりとりしていたら、だれとでも話せるようになった。
進んで話したり聞いたりすることが、できるようになった。
自分で考えて、英語を使って伝えることが楽しくて、積極的に活動できた。
人に伝える楽しさが分かった。
人に英語で、自分の気持ちを伝えることが進んでできるようになった。
英語はあまり好きじゃなかったけど、好きになった。



英語活動は、英語を教えるのではなく、子どもたちが、自分の気持ちや思いを伝えたり、相手の言うことが分かったり、互いに通じ合えた体験をしていく場であると考えるとよいですね。



子どもたちが、人とのかかわりを楽しいと感じ、進んでコミュニケーションを図ろうとするようになるには、「聞いて、やりとりして、伝える」ことを中心とした「三つの活動場面」を意識して、ねらいを明確にした活動を組んでいくことが、大切なのではないのでしょうか。



問い合わせ先 群馬県総合教育センター
担当係: 義務教育研究係 0270-26-9213 (直通)